

令和4年度

I 国 語

(9時00分～9時50分)

注 意

- 問題用紙は、5問で9ページです。
- 解答用紙は問題用紙の中にあります。
- 答えはすべて、解答用紙の所定の欄に、文、文字などで答えるものの他は、ア、イ、…などの符号で記入しなさい。

福島県磐城第一高等学校

令和四年度 I 国語

一 次の問1～問5の問いに答えなさい。

問1 次の1～3の文の傍線部の漢字の読みがなを、それぞれ書きなさい。

- 1 勉学に励む。
- 2 砂上の樓閣。
- 3 身柄を拘束する。

問2 次の1～3の文の傍線部のカタカナを、それぞれ適切な漢字に直して書きなさい。

- 1 法律のシコウ。
- 2 カクゴの上。
- 3 出発をノばす。

問3 次の漢字の総画数と同じ漢字を、次のア～エから一つ選びなさい。

紺

- ア 既    イ 辱    ウ 郭    エ 匿

問4 次の熟語は、ア～オのどれにあたるか、最も適当なものをそれぞれ選びなさい。

- ア 反対やついになる意味の漢字を組み合わせたもの。  
イ 同じような意味の漢字を組み合わせたもの。  
ウ 上の字が下の字の意味を説明（修飾）しているもの。  
エ 下の字から上へ返って読むと意味がよくわかるもの。  
オ 上の字が下の字の意味を打ち消しているもの。

- 1 暫時
- 2 翻意
- 3 平凡

問5 次の文の傍線部「やってくる」を適切な敬語に直して書きなさい。  
・先生が教室にやってくる。

二 次の文章は、「続古事談」の一節である。注を参考にしてこれを読み、問1～問6の問いに答えなさい。

(注1) 故少納言入道、人にあひて、「(注2) 敦親はゆゆしき博士かな。物をとへば知らず知らずといふ」といはれけり。其れを問ひたる人、「知らずといはんは何のいみじからんぞ」といひければ、「身に才智あるものは知らずといふ事を恥ぢざる也。実才なきものの、よろづの事をしりがほにするなり。すべて学問をしては、皆の事をしりあきらむる事と人のしれるは、僻事也。大小事をわきまふるまでするを、学問のきはめとはいふなり。それを知ぬれば、(注3) 難論をとはれて知らずといふを恥とせぬなり」とぞいはれける。

(「新日本古典文学大系」による)

(注1) 故少納言入道 || 藤原通憲

(注2) 敦親 || 藤原敦親

(注3) 難論 || 難しい事柄や言葉の意味

問1 太線部「きはめ」を現代仮名遣いに直して、すべて平仮名で書きなさい。

問2 傍線部①「いはれけり」、③「いひければ」の主語は誰か、最も適当なものを、次のア～ウからそれぞれ選びなさい。

ア 故少納言入道    イ 敦親    ウ 其れを問ひたる人

問3 傍線部②「問ひたる」はどのようなことを尋ねたのか、最も適当なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア 知らないと言ったのがなぜいけないのかということ。

イ 知らないと言ったのはいったいどれなのかということ。

ウ 知らないと言ったのはどのような目的なのかということ。

エ 知らないと言ったのがなぜすばらしいのかということ。

問4 傍線部④「実才なきもの、よろづの事をしりがほにするなり」の、「実才なきもの」と対比的な意味の表現を、本文中から八字で抜き出して書きなさい。

問5 傍線部⑤「僻事也」は「間違いである」という意味であるが、ここではどのようなことに対して間違いであると述べているのか、最も適当なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア 学問を修めるとはすべてのことについて明確に理解できることであると、人々が思っていること。

イ 学問を始めたけれども途中であきらめてそのままにしている人のことを、非難して責めること。

ウ 学問によってものごとを知っていくことは必要ではないと、少数の人が考えていること。

エ 学問を通してあきらまなくなったものごとを、人々にすべて教えてしまうこと。

問6 次の文章は、傍線部⑥「知らずといふを恥とせぬなり」について  
まとめたものである。これを読み、後の1、2を答えなさい。

・「知らずといふ」ことを「恥とせぬ」のは、I「I」とい  
う部分から考えると、「それを知」るゆえに「恥とせぬ」のだとわ  
かる。この「それを知」る、とは具体的には「大小事をわまふるま  
でする」ことができるようになることを意味している。以上から、  
「知らずといふ」のは、その人がII「II」ことであらわれなの  
である、という考え方が、ここでは述べられていることがわかる。

1 Iに入る最も適当な表現を、本文中から七字で抜き出し  
て書きなさい。

2 IIに入る最も適当なものを、次のア～オから一つ選びな  
さい。

- ア 常に努力を忘れず、多くの知識を得ることに価値をおいている
- イ 重要なことを学習したが、学んだ内容の多くを忘れていく
- ウ 好奇心を持ち、さまざま人の教えを進んで受けることができる
- エ 重要なところを見分けることができ、ものごとの本質を理解し  
ている
- オ 自ら思考することを手放し、安易に人に頼ろうとしている